

LAN アクライザーの活用(4)
—アナログと配信音源再生(4)—

1. 始めに

前報(3)に引き続き、LAN アクライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、アナログと配信音源再生の直接比較を実施していきます。

2. LAN アクライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのは、ヘルムート・ヴァルヒャによるバッハのオルガン曲です。

アナログ盤

ARCHIV SLAM-1 (日本グラモフォン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

ヨハン・セバスティアン・バッハ プレリユードとフーガ ハ長調 BWV547

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第1番 変ホ長調 BWV525

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第6番 ト調 BWV530

ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

STAGE+

J.S.バッハ：オルガン作品集

ヨハン・セバスティアン・バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第1番 変ホ長調 BWV525

ヨハン・セバスティアン・バッハ 喜び迎えん、慈しみ深きイエスよ

BWV768

ヨハン・セバスティアン・バッハ 前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV552

ヨハン・セバスティアン・バッハ

目覚めよとわれらに呼ばれる物見らの声 BWV645

われいずこに逃れゆくべきか BWV646

尊き御神の統べしらすまに BWV647

わが主をあがめ BWV648

われらと共に留まりたまえ BWV649

イエスよ、いまぞ御空より降り来りて BWV650

ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

3. LAN アクライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクライザーの導入\(31\)](#)で報告していますが、この時

点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

アナログ盤の再生においては、フォノイコライザーのイコライザーカーブは **TELDEC** を選択し、位相反転させています。**STAGE+**では、**Brooklyn DAC+**においてアナログ盤と同様、位相反転させています。

収録されている曲のうち、両者で共通のトッカータとフーガニ短調とトリオ・ソナタ第1番変ホ長調を聴き比べます。

アナログ盤の再生では、ずっと以前の購入から長年聴いており、盤質はよくなくプチプチノイズがあります。**ARCHIEV**からのライセンスで日本グラモフォンの制作販売のようになろうレンジで解像度もそれほどよくありませんが、ヴァルヒヤの壮大な演奏スタイルを伺うことができます。

STAGE+再生では、アナログマスターからのリマスターのようで、デジタル臭さはまったく感じられず、ノイズもなくて高音は澄んでおり、低音もクリアでヴァルヒヤの演奏スタイルが忠実に再現できている印象です。

アナログ盤の盤質がよくないのにひきくらべ、**STAGE+**のほうはデジタルへのリマスターや保存状態も良好なようで、配信のメリットが感じられます。

4. まとめ

アナログと **STAGE+**双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、**STAGE+**の配信音源の再生では、2ヶ所への **LAN** アキュライザーの装着の効果でアナログマスターの雰囲気を引き継いだ音になっている印象です。

以上